

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点]（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	(有)グループホーム・元気の家
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	長崎県松浦市志佐町赤木免253番地
記入者名 (管理者)	代表取締役 金子光代
記入日	平成 20年 9月 23日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時、職員皆で話し合い運営理念を作成した。何事もオープンで誰もが心安く集まり和やかなホームにしたいという思いから、ホームが地域に溶け込み入居者が孤立する事無く生活出来る事を大切に考えその思いを理念にした。		
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日朝礼で唱和している「自立支援を」掲げているが「自分で出来る事をしていただく」ではなく「自分から しよう」という思いを引き出す援助をしている。入居者にしていただくまでの過程を大切にする様職員も心がけ ている。		
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	常にホーム行事や、利用者の近況報告の連絡を密にして家族や地域の方々と親睦を計っている。年間行事 の中に取り組んで家族や地域の方々を招いて親睦と理解を得る努力をしている。		
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	行事などの招待や、普段から気軽に声掛け合い、立ち寄られた時は一緒にお茶などしている。又、近くで 草刈などをされているときはお茶を持っていく。近所の方々からも野菜や果物、「旅行に行ったので」とお土産を頂いたりする。		
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設6年体力、レベル低下はあるもののその方一人ひとりにあった参加に務めている。小中学生の職場 体験、保育園児の訪問、二級ヘルパー実習などを取り入れ支援を計っている。いつも誰かが訪れてくれ地域 にも出かけているので孤立しているとは思えない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運動会等の行事の際地域の高齢者に声掛け、参加していただいている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年に引き続き同じ職員が自己評価、外部評価を経験しており、評価を受けるたびに意義を話し合っている。前回の外部評価については全職員で話し合い改善に向け計画を作り、取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生員、家族、地域の方々が参加し定期的に今後の課題の検討を行っている。いろいろな問題からホーム 独自の会議のやり方だったので今回やっと正規の会議にこぎつけた。今後も継続していこうと考えている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	できている。随時報告されている。よく足を運んでいる。管理者が市の地域密着型の委員をしているので話し合う機会が多い。市町村から依頼がある研修会には必ず参加している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修を受け、職員間で勉強をし、理解を深めている。県北地域の担当者の方に来ていただき話を聞いたりする事もある。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、虐待はあってはならないと会議の折、またはその都度話し合っている。県の身体拘束の研修会に管理者、職員が参加している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時御家族と利用者に書面に沿って詳細に説明を行い理解を得ている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を用意している。入居者には常に話を聞くように務めている。元気がなかったりイライラされているときは管理者がひざを突き合わせじっくり話を聞くようにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームページを作成している。面会時必要な書類（領収書など）提示し説明し、署名捺印をもらっている。面会がない家族には文書や電話で連絡している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置し、面会の折に話をしたり聞いたりしている。面会が少ない家族には文書や電話で連絡をしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時報告をしたり意見を言う機会がある。月一回職員会議があり意見を述べる。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	対応できる様調整されている。希望休みなど全て対応し、勤務表を作ってくれている。子供が小さい職員は子連れ出勤を認めてくれている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の出入りは少ない。新人職員が入ったら入居者の方々に紹介し説明している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会に該当する人材研修には必ず参加させていた だいているがここ一年は県の受講にもれる場合が多い。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホーム、特養（管理者が開設前に勤務していた）の行事に行ったり来たりして他のホームの良い点を取り入れている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	時々懇親会を行っている。年一回は職員旅行もある。悩みがあるときは管理者がその都度親身になって聞いてくれる。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	一人ひとりの個人の性格や健康状態を把握し、楽しく希望を持って働ける様務めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居者の言葉行動を常に観察し、不安等がないか見極め、話を聞くように務めている。その方の側に座り手をとってさすったりして寄り添う。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会や電話の折、話を聞き実行している。来所された時には門扉のところまで送り、ホーム内で言い出せないでおられた事を聞くようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できている。地域の施設や行政等と連携し対応に勤めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	場合によっては短期入所から入ってもらい本入所となる様にもしている。短期入所された折にも、管理者がその方の居室に泊り不安や淋しさを感じさせないように務めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で利用者と共同作業の中から学ぶことがあり、又手助けをする事で関係を築いている。 (行事やしきたりなど、入居者の方から学ぶ事も多い)		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	来所の機会を作るために企画を立て参加して頂く様にしている。又、振込にせずなるべく持参し、面会に来てくださるようお願いしている。(利用料)		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	何事にもお世話になっているのでお中元、お歳暮は必ず送り、ホーム外行事に出かけた際にはお土産を持参している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話などがある時には取次ぎその人達の話を聞いている。又、地域の招待があれば参加されている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	見守りの職員が必ず一人は見守り、レクリエーション会話などし、黙って腰掛けっぱなしにならない様に取り組んでいる。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院されたり他の施設に移られても時々面会に行っている。亡くなられた際には葬儀へ参加したり、弔電を打ったりしている。今でも退所されて何年もなれる家族の方が来所されたり、菓子などを送ってくださる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を優先的に考えて努めている。管理者が良く一人ひとりの方と話をしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サマリーや家族からの情報等で把握に努めている。(ボランティアで理容に来て頂いているが昔から行きつけの理容院への介助などを行っている。また、宗教等もその方一人ひとりを大切にしている。)		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	食べる時間、寝る時間など、その方が望む時にしている。全ての利用者に時間割はない。朝のバイタルを参考にし、一日に状態の観察に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	来所時や電話連絡などにより家族の意向や入所者の希望や思いを取り入れ計画に生かしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3～6ヶ月で見直し、状況の変化があった場合はその都度見直しをしている。2表の右端に評価の欄を設け変化があったらすぐに記録するようにしている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の徹底（生活記録、申し送りノート等を利用している）生活記録の表紙の裏に一人ひとりのケアプラン表2を貼り付け記録に生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その方の要望に応じて自宅訪問やお墓参り、教会などに連れて行っている。日常の買い物(食品など)に出かける事も多い。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	インフォーマルボランティア。有償ボランティア、保育園児、職場体験、ヘルパー実習、民生員、ケアマネなど訪問者は多い。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	短期利用出来る事もあり、担当ケアマネ、包括支援センター、他の施設との連携を常に行っている		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて権利擁護の件で包括支援センターの所長に相談している。又、要支援2より入居できるのでその相談をする事も多い。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームは協力病院ではなく、その方一人ひとりのかかりつけ医受診をモットーにしているので必ずかかりつけ医受診をしている。定期受診はホームからお連れするが状態の変化などがある場合は家族に連絡し、一緒に病院に行き、主治医の話をきいてもらうようにしている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医との連携を密にし、なんでも相談できるように努めている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問介護の方が良く来所し、話を聞いてくれる。又、当ホームには看護師が二人職員でいる。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中も職員が交代で面会に行きその都度経過をたずねている。(家族に代わり、洗濯物は持ち帰って洗っている)		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医、家族、管理者との話し合いを状況に応じていき、その話し合いの方針を全職員で共有している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医、家族、ホーム側とで終末期の話し合いをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	介護サマリーを作成しているので別のところへ移られる際には渡している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	去年の反省点を踏まえてより良い言葉使いをする様になったと思う。月一回の職員会議でもプライバシーに関しての件を必ず話し合っている。(申し送り時なども事務所の戸を閉め声のトーンに気をつけている)		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の目線に下り、納得されるまで話をしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が寝たいときに寝、食べたい時に食べ、時間割がなく一人ひとりのペースを大切にしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その方の望む暮らしの支援をしている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルに花を飾り、BGMを低く流しランチョマット、箸、茶碗、湯飲み等全て個人のものを使用している。食事の準備(皮むき、野菜切、セッティング等)その方が出来る事をしていただいている。茶碗洗いは利用者の方が交代で洗ってくれる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	行事のときはお酒を出したり、おやつ時は好きなものを飲むようにしている。(火、木、土のフロ日以外は三時の希望飲み物を聞き出している)		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表にて一人ひとりのパターンを知り声かけ誘導をしている。昼のみボクサーパンツを着用している人もいる。(紙パンツに依存しないようにしている)		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日はだいたい火、木、土となっている皮膚疾患の方は毎日足浴などをし、他の日に入りたいと言われる方は希望に沿っている。(夜間でも可)		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	自宅で使われていた物を持って来ていただき、自宅の延長を心がけている。(ベット、布団、枕、箆簞、コタツ、テレビなど)		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カラオケ食事の買い物、自分の宗教の場所へ連れて行ったり、外庭の散歩をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行事の買い物など出かける際には能力に応じお金を持たせ、自由に自分の欲しい物を買えるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	状況に応じて支援している。(理容院、整骨院買い物などその方の希望を支援している)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	支援している。(行楽地、温泉、その方の宗教の場所など)		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の内容を本人が書き住所等を書く援助をしている電話もダイヤルを回し、相手にその旨を伝えて本人に話をさせている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問された方が「ここに来やすい」と言ってくれる。この雰囲気を保ち続けたい。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加し、報告会議を行い、ケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。(夜間の戸締り以外、鍵をかけた事はない)		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室に入るときは必ずノックし、返事があってから訪室するようにしている。日中はみなさんほとんどリビングで過ごされるので勤務分担で見守りの職員を必ず配置している。(目配り、気配り、心配り)		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	事務所で個人袋を預かっている。「気づき」を養う努力をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	毎日の勤務者で、その日の勤務分担を決め、見守りと声掛けの徹底を行い事故防止に努めている。火災防止などについては自主点検表を作成し、点検後記録をしている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護師2名が常勤者にいる為、応急処置の方法を学んでいる。又、消防学校に5名入校し、訓練している。事務所の壁に応急手当の方法を掲示している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に少なくとも3～4回は避難訓練をしている。又、近隣者3軒にも協力をお願いしている。今年は非常口を増設し、スプリンクラー設置を行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入居時に説明をし理解を得ている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行い、一人ひとりの体調を把握し、職員間の申し送りを徹底し対応している。又、夜間の急変でもすぐに対応してくれるよう主治医との連携を日頃から密にしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指示の元管理し、職員がわからないときは個人ファイルにしてある薬事表で確認している。(服薬管理は全て看護師が行っている)		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	1日1500mlの水分補給に心がけ週3回のセンナ茶(センナゼリー)を飲ませている。又、野菜などを多く取るように心がけている。(なるべく、薬を使わない介護に取り組んでいる)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の義歯の洗浄、歯磨きを行っている。（寝る前は個人専用のコップに水を入れ、外してもらうようにしている。）		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事表や水分チェック表など利用し、確実に摂取できるように努力している。粥食やキザミ食など話し合って提供している。又、糖尿病の方などいっぺんに食べてしまわれるので満腹感が出るよう半分ずつに分け食べてもらうようにしている。（多く見えるような器や盛り付けに気を配っている）		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	毎食前、トイレ後、外出後には手洗い消毒の徹底をしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎週水曜日を台所掃除の日と決め実施している。野菜類はほとんど自家製であり買い置きはしないように努めている。（冷凍食品は使ったことがない）有機野菜作りをずっと行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	出入り口は常に開放しており、出入りしやすい家庭のような環境に勤めている。民家改修型なので自分の家のように思ってくれている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方と花を植え、開花時には花を飾り室内テーブル等四季感を演出している。田舎なので田園が広がり山や川があり自宅のような雰囲気だと思う。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほとんど日中はリビングで一緒に過ごされるが個室なので、一人になりたいときは自室で過ごされる事もある。その都度対応している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分が日頃使っていたものを持ち込まれている。フローリングではなく全室畳なので喜ばれている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなくよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	食事、おやつの時など皆さんが居室へおられないとき了解を取って、窓、ドアなどを開けて換気している。消臭器も数箇所設置している。温湿度計を全室、食堂、リビング風呂場など設置している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室、廊下、廊下、洗面所など手すりを付けてバリアフリー対応にしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	毎日の生活の中で身の回りの事など出来る限り自分でできるよう支援する。悩んだり行き詰ったりされた時はそっと寄り添う。毎朝カレンダーの印つけの介助をする。		
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外庭はコンクリートにせず土のままにして自然を残し、草むしりをしたり、縁側で日向ぼっこが出来るようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

(有)グループホーム・元気の家

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自然を出来るだけ残し、施設ではなく、自分の家として自分らしく生活していただきたいと思う。私達は職員ではなく家族でありたいと日々思って共に生活しています。冷凍食品は使ったことがなく、野菜、魚など中心の食事を心がけ、安定剤、眠剤、便秘薬などは使用しない介護をしています。「人を人として」をモットーに職員と共に頑張っています。職員も「家族として」と思い、職員を大切にしなければ良いケアはできないと信念を持っています。小さな子供がいる職員は子連れ出勤を認めています。グループホーム経営ではなく家族として共に生きて生きたいと思ひます。忘れてならないのは「目配り、気配り、心配り」だと思ひます。